

# 明通寺(小浜市)

説明板が立っている



大同元年(806年)に征夷大將軍の坂上田村麻呂が創建したと云う

# 明通寺

小浜市明通  
真言宗智恵心

平城天皇の大同元年(八〇六年)坂上田村麻呂の創建と云う  
当初この二字を建立し、桐(五ノヤ)を以て寺名に、山(明通)に  
降三世明王、深沙大將の三尊を、謝利(三尊)と云うと伝へ、  
桐にちなんで桐山と云うし、光明通寺と多分けた。  
その後堂塔伽藍次第に備へし、附寺の俗名には亦五坊と  
たちならび鎮護國家、濟世利民の祈禱塔として、隆盛を  
極めたが、南朝以来、四百年間に三回の大火の害に遭ひ、  
往時の諸堂伽藍は悉く焼失した。  
然しながら、今より約七百年前、中興親禅法印、現在の木堂  
三重塔を再建してより、法燈今に絶へる事なからず、  
本尊薬師如來は、象方悉除の法華を施して、世々の衆生を  
化益し給う靈験あらたかな寺刹である。

## 本堂

新行五間、三層、木造、深さ五間、幅三間、高五間、  
単層八段屋造、(一五八八平)  
鎌倉時代(一二五八平)

## 三重塔

方高四・五木、総高三・二二、  
屋根松皮葺、鎌倉時代(一二七〇年)

## 薬師如來坐像

木造像高 一四・五、  
藤原時代

## 降三世明王立像

木造像高 二五・二、  
藤原時代

## 深沙大將立像

木造像高 二六・六、  
藤原時代

## 不動明王立像

木造像高 一六・八、  
藤原時代





小浜市は大陸に近い港町であり、古来から朝鮮半島や中国との交易が盛んで、鯖街道はその歴史を物語る



## 御食国若狭と鯖街道

海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群

針畑越え

最古の鯖街道の歴史的景観

遠敷の里の古代中世の  
社寺・仏像群

# 明通寺

Myotsuji Temple

806年、征夷大將軍坂上田村麻呂が靈夢の導きにより創建したと伝わります。本堂、三重塔(国宝)は鎌倉時代の木造建造物。平安時代後期作の木造薬師如来坐像、木造深沙大將立像、木造降三世明王立像(国指定)など貴族が帰依した中世密教寺院の様相を今に伝えています。

本堂と三重塔が国宝となっている

真言宗御室派 桐山 明通寺

当寺院は、平城天皇の御願寺として、大同元年（八〇六）征夷大將軍坂上田村麻呂公がこのじころに前五間、奥六間の本堂を建立し、桐木の太木で半丈六の薬師如来坐像に七尺の降三世明王立像、同じく深沙大將立像の三体をつくり安置して、桐山明通寺と名づけた。その後、数年を経て、三重塔、仁王門をはじめ他諸堂次第に完備し、住持に僧房が二十五坊を数えた。

然しながら、創建後四百年の内に三度の火難に遇い、創建当初のものは全て焼失してしまっている。

その後、中興頼禅法印が正嘉二年（一一五八）現在の本堂、続いて文永七年（一一七〇）三重塔を再建して以来今日に至るまで法燈耐えることなく、鎮護国家、濟世利民の祈禱場として隆盛を極めている。

指定文化財

国 宝	本 堂	正嘉二年（一一五八）	鎌倉時代
国 宝	三重塔	文永七年（一一七〇）	鎌倉時代
国指定重要文化財	薬師如来坐像		藤原時代
国指定重要文化財	降三世明王立像		藤原時代
国指定重要文化財	深沙大將立像		藤原時代
国指定重要文化財	不動明王立像		藤原時代
市指定文化財	仁王門	明和九年（一七七二）	江戸時代
市指定文化財	仁王像	文永元年（一一六四）	鎌倉時代
市指定天然記念物	かやの巨木		推定樹齢五百年以上



ここから参道を登っていく



これは山門(仁王門)/1772年の再建





上部の組物の様子/斗拱は三手先



江戸時代的な墓股





石積み基壇と礎石の様子



鎌倉時代作とされる像高190cmの迫力のある阿吽の仁王像





天井の様子





鐘楼





さて、前方に本堂が見えてくる





入母屋の屋根が、大きく翼を広げた鳥のように見える





アップで見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





さて、右手が本堂の向拝/前方の一段上には三重塔が見える

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





## 国宝 明通寺本堂

この本堂は正嘉2年(1258)今から700余年前  
鎌倉時代中期に 当寺中興頼禅法印によって再建された  
ものである

単層入母屋造で桁行5間(正面14.72m)梁間6間(側  
面14.87m)檜皮葺である 内部は梁間6間の中央に菱格  
子欄間と格子戸の間仕切りを入れて前後を内外陣に分け  
ている 所々に新様式と珍しい手法を施し大陸様式を撮  
取しながら和様美を具えた優秀な密教建築である

大正10年6月から解体して大修理を行い 大正12  
年2月に復元完成 昭和28年新国宝に再指定された



単層入母屋造/檜皮葺/和様建築で、中世密教寺院の本堂として典型的な五間堂/自然石の乱積の基壇上に建つ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





ここが向拝/向拝部分は江戸時代に付け加えられたものであるとされ、再建当時のものではないようだ





向拝の屋根裏を見上げたところ/正面の中備は墓股





そこで左手を見たところ





同じく右手を見たところ





向拝屋根裏を横から見たところ





海老虹梁の上の出組の斗椽、軒支輪(蛇腹支輪)を見たところ





向拝柱下の礎石と礎盤を見たところ





回縁を見たところ/高欄は付いていない





床下の亀腹を見たところ





回縁は外陣と内陣の境界で奥の内陣の部分が一段上がっている



隅部の軒裏を見たところ





隅部の斗栱/正面以外の中備は間斗束

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





出入口は棧唐戸





棧唐戸軸吊元の様子





棧唐戸軸受けの様子





向拜海老虹梁





蔀戸





隅部の斗拱





大棟の鬼





懸魚





これは本堂内部/中世仏堂特有の外陣と内陣を厳格に区画する構成で、手前が外陣で、菱格子欄間と格子戸で仕切られた一段上がった奥の部分が内陣/須弥壇中央には、本尊である平安末～鎌倉初期頃の作とされる薬師如来坐像(寄木造/重要文化財)が、向かって左に深沙大将立像、右に降三世明王立像の脇侍が並び、その前には十二神将が守護するように安置されている





さて、こちらが三重塔/文永7年(1270年)鎌倉時代中期の再建/国宝





屋根の寸法が上層へ行くに従って低減する割合や軒の出が大きく、安定感を生み、優美な姿を造り出している





## 国宝三重塔

三重塔は、文永七年(1270)中興頼禅法印の時代に再建されたものである。礎石、縁束石ともに自然石で、漆喰叩の上にたてられたこの塔は、方三間三重塔婆で、回椽つき出組物は各重とも和様三手先を用いている。総高22.12m、建坪17.46m<sup>2</sup>で、塔のシンボル相輪の高さは6.92m。同時代の三重塔としては特に軒の出が深く、安定感があり和様の端正優美な塔で、鎌倉時代のこの種の塔婆の典型といわれるものである。

初重内部は、四天柱内を内陣とし、正面に釈迦三尊、背面に阿弥陀三尊を安置し、四天柱及び四方壁に十二天像壁画が施されている。昭和28年 国宝に再指定された。



初重中央間には板唐戸が開いており、脇間には連子窓が設けられている





心柱は初重の天井上より立っており、代わりに初重内部には四天柱が存在する/四天柱の中央には須弥壇が置かれ、そこには阿弥陀三尊像と釈迦三尊像が安置されている/これら須弥壇や四天柱、また周囲の壁には、十二天像などの仏画が色鮮やかに描かれている(建立当初のものではないそうだ)





雨落溝が設けられている





左側面から見たところ





背面から見たところ





二軒/斗拱は三手先、中備は間斗束/軒天井(小天井)と軒支輪(蛇腹支輪)も見える





こう見ると軒の深さが見て取れる





建築様式は基本的に和様であるが、木鼻の一種である拳鼻(こぶしばな)が付くといった、大仏様の特徴も見受けられる/塔に拳鼻が付く例としては、この明通寺三重塔が現存最古と云う/大仏様の猪目(ハート型)が彫られている





猪目(ハート型)





擬宝珠によって飾られた高欄付きの回縁が巡らされている





縁束石を見たところ





亀腹とその上に立つ礎石(左手)を見たところ





板唐戸





連子窓





地垂木と飛檐垂木の軒下と、檜皮葺き屋根の軒反りを見たところ





右手の白っぽい肘木は修理(取り換え)したもののようだ



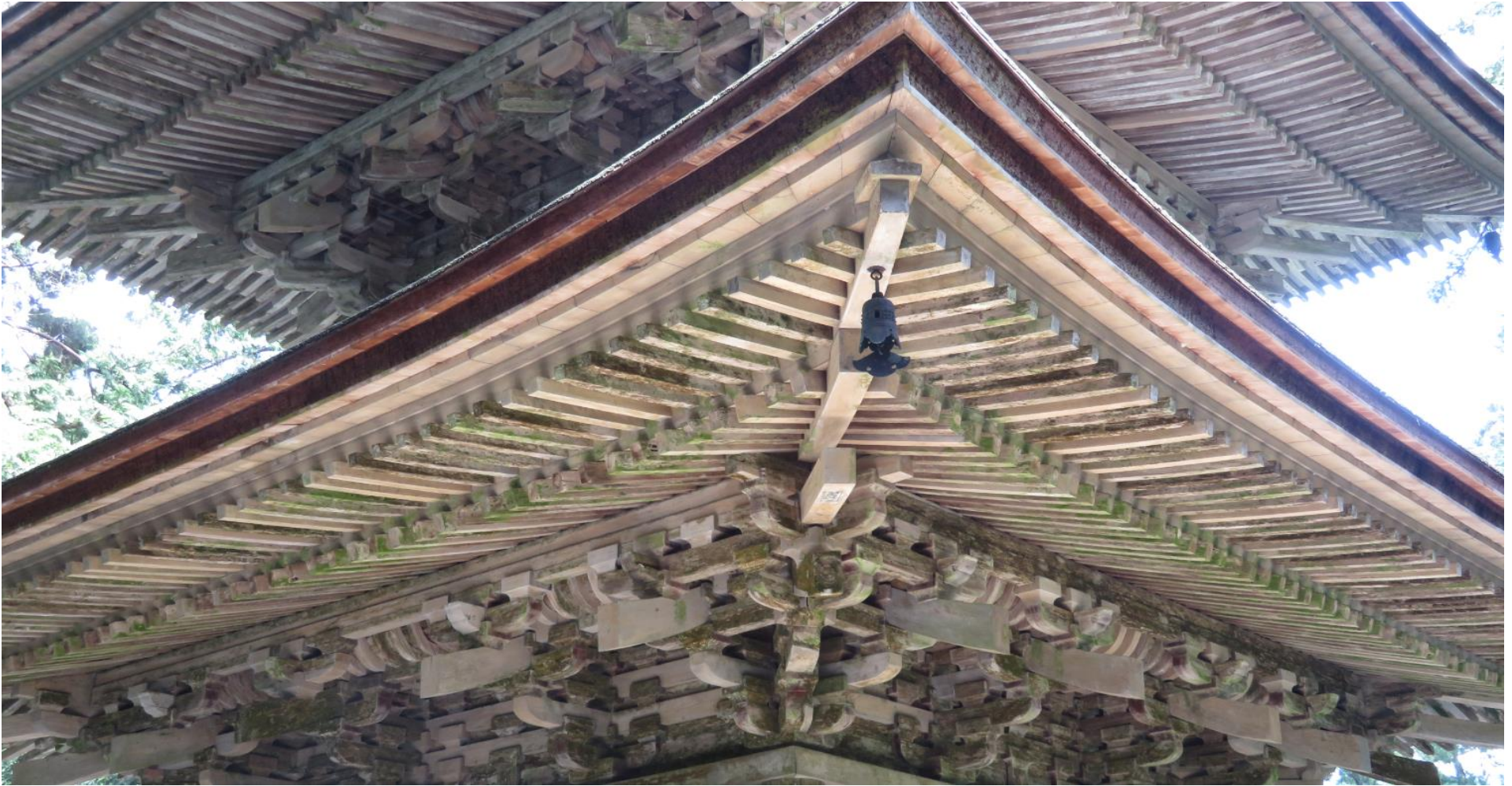


軒先の納まりを見たところ





いやはや、ダイナミック！





垂木と組物が整然と並ぶ、三重塔の軒下

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





三重塔の位置から本堂の屋根を見たところ





軒先左手を見たところ





同じく右手を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





境内にはこんな宝篋印塔もあった





さて、これは客殿脇の建物





一風変わった斗拱





大仏様の挿肘木形式になっている





参考ホームページ

<http://www.kokuhoworld.com/017.html>

<http://kankodori.net/japaneseculture/treasure/031/index.html>

[https://blog.goo.ne.jp/hearts-ease\\_2005/e/3d0c420c65da6898be2454d2f9132048](https://blog.goo.ne.jp/hearts-ease_2005/e/3d0c420c65da6898be2454d2f9132048)

<https://ameblo.jp/2014douzyouzi708/entry-12280307138.html>

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/teiryu/Fi03.html>

<https://www.eonet.ne.jp/~kotonara/jiinkentiku%20kamamura.htm>



